Vol.８０
環境パートナーシップちば だより
― つながれ ひろがれ ―

編　集　環境パートナーシップちば
代　表　桑 波 田　和 子
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
業務管理グループ
電　話　043－246-2180
ＦＡＸ　043－246-6969

地球サミット 2012JAPAN 連携企画 “ちばからはじめるアース・ダイアログ”

鹿野陽子（東京ガス（株）千葉支店）

６月２５日（土）、千葉ビジネス支援センター会議室にて“ちばからはじめるアース・ダイアログ”を行いました。来年、ブラジルのリオで行われる地球サミットに向けて、地球や未来に向けた対話を行い、その対話から生まれた声や意見をサミットに届けようという取り組みに賛同し環境パートナーシップちばが主催して行いました。（当初、３月１３日（日）に計画し延期開催したものです）

アース・ダイアログ（Earth Dialog）という取り組み自体は、昨年、東京都内の若手官僚や企業人等の有志が中心となりはじまりました。10 年に１度開かれるサミットの意義を広く伝えるとともに、わたしたち一人ひとりが描く未来を世界に届けるための市民の対話の場をつくっていこう主旨でスタートしたものです（任意の団体を組織）。

今回は、そうした動きに連動し、ちばからはじめよう！を合言葉に初めて千葉で開催。地球サミット 2012JAPAN の中心メンバーの方々が、講師、ファシリテーターとなり、約４時間に渡ってダイアログを行いました。（私自身は、都内のスタッフの方々と環境パートナーシップの皆様との橋渡しを行いました。）

ダイアログのテーマは、“３．１１後の社会、わたしたちの未来を千葉から考える”。

“地球サミッ２０１２ＪＡＰＡＮ”副代表の佐野淳也さん（元立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究所）が講師となり、ファシリテーターの方（赤塚丈彦さん、藤原加代さん）の誘導のもと、ワールドカフェという新たな形式（メンバーの組み合わせを変えながら、４～５人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話合っているような効果が生まれるもの）で行いました。

アイスブレークを兼ねた自己紹介（名前”“所属”“千葉を一言で言うと”“あなたにとっての幸せ”）と地球サミットの歴史や地球サミット２０１２ジャパンの活動についての紹介の後、３回に分けて対話を実施。（テーマは、①震災後に思うこと、感じること、②持続可能な社会に向けて何が必要か？③持続可能な社会の実現に向けて千葉からできること）

ワールドカフェの対話には、みなが自由に楽しく話しができるようないくつかの工夫がありますが、中でもトーキング・オブジェクトというツールは有意義でした。オブジェクト（何でもよい。今回は、京葉ガス（株）様からいただいた山武杉間伐材で作ったバードコールを使用）を持っている人しか話をしてはいけない（他の人が途中で話をさえぎってはいけない）というもの。とても簡単そうですが、案外と難しいと感じました。時折、オブジェクトを握り閉めながら長く話してしまう方もいたり、自分自身も意識して離さないとどうしても長くなりがちになってしまいます。

３回の対話を通じて様々な意見が交わされましたが、中でも千葉ならではの特性、例えば、都市と自然の豊かな地域が共存していること、また、農産物や畜産物が豊かなことを活かした暮らしのありかた、まちづくりについて考えていこうという意見が印象的でした。また、講師の佐野さんが現在、お住まいになっている富士の裾野での自然と共生した暮らしの様子や幸福論についてのお話もあり、これからの未来の在り方を考える上での一つの参考となりました。

反省点としては、広報活動が十分でなく参加人数も約 20 名に留まった、日頃から知っている人同士の対話になってしまった、対話の中身が拡散しがちだった等、多くの課題が残りました。これらは、新たに、エコメッセ実行委員会として行う９月４日（日）のダイアログにも活かしていきたいと思います。

東日本大震災地で焼きついたもの。「生き物」の価値

環境パートナーシップちばアドバイザー　高橋 晴雄

平成２３年７月１４日、四街道の仲間と千葉産の野菜を積んで南相馬市の学校給食センターに行きました。避難所生活に耐え兼ね家族とともに戻ってきた子供たちは体育館を８つのパテーションで区切った教室で給食していました。

放射線を防ぐため窓を締切ったままの体育館内教室。酷暑のなかの給食光景。おにぎり、汁椀(ｼﾙﾜﾝ)、１品の３つの食器、以前のようにおにぎりと牛乳かヨーグルトではなくなっていた。最近やっと蛍光灯がついたと喜びを語っていました。バスで送り迎えの登下校。育ちざかりの子供から**外**(グランドも)と**音**(音楽も)と**食**を奪う人権侵害の現実を目の当たりにしました。疎開が必要な放射線に晒(ｻﾗ)されていました。

かつてこの地域は魚も野菜も空気も新鮮な日常が当たり前でした。都市への食の供給地でもありました。田畑は地盤沈下による浸水の塩分と用水路破壊による干上がり、さらに全土壌の放射線で全市あげて耕作不可へ変貌していました。最初にセシュウム牛肉の発見された地でした。

「私が福島原発から２２キロ地点で撮った写真です。生き物の気配が一切ない静寂さは怖いです。人気がないところで靡く（なびく）４匹のこいのぼりは、見えない放射線を含んだ風に揺れていました。

昆虫　カエル　セミ　メダカ　トンボ・小鳥・・・・など、動く生き物がいない世界は異様です。目と心に焼き付けたものは３・１１以降５回訪ねた岩手（宮古）から宮城（石巻）にかけてのリアス式海岸地帯と、仙台から福島原発事故地域かけての海岸沿いの長さ２００キロの広大な平坦地域でした。

動くものの気配がない世界は人々を喪失感に導きます。家を流され、地域のつながりが絶たれ、愛するものを失い、あるいはバラバラになった親族・友人を訪ねたときの経験です。艱難（かんなん）さは福島原発事故地域に一層過酷でした。

放射線はアメンボだって，オケラだってミツバチだって見境なく襲ってきます。そして人間も老若区別なく襲います。ところで３・１１直後にすでにレベル７の世界的最悪事故になっているにも関わらず「政府も東電も学者」も「直ちに身体に影響はない」とし、原子炉の構造（５つの安全装置と修復、冷やす、閉じ込めることなど)の説明に終始してきました．日本経団連の米倉弘昌会長は３月１６日、東京都内で記者団に対し、福島第１原発の事故について「千年に１度の津波に耐えているのは素晴らしいこと。原子力行政はもっと胸を張るべきだ」(北海道新聞)と述べ、国と東京電力を擁護・指揮しました。かくて１か月以上メルトダウンなどの過酷事実は隠蔽され、原発維持継続(廃炉阻止)の政策は継続してきました。いま負の影響は国内外に取り返しがつかない広がりを見せ始めています。

しかし多くの人には生き物への視点を欠く科学技術、原発は５つの壁で安全だと過信してはばからない安全神話を作った科学技術思想(自然への傲慢(ごうまん)、畏敬の喪失)、そこに経済的利得を見出した政治、経済・マスメディアの原子村があることがみえてきました。科学の向こうに命があること，その技術境界の向こうに生き物があることにもはや無関心であってはならないこと。科学は命のためにあること。経済成長のため命（教育、生活、農漁業林業の尊重につながる）を犠牲にして来た戦後日本との決別への意思が次の時代への分岐点になる。生物多様性への見識を持つ人たちが時代の要請にこたえたる開拓者になるのではないか。原発から８キロの双葉町から避難してきた人が許された２時間だけの帰郷のとき　飼っていた山羊はせんべいのようになって死に絶え、ペットの犬はまとわりついて離れなかったといったまま私の前で絶句した。小鳥やウサギやヤギの身になってみよう。０～９歳の子供と４０歳の対比では、放射線の感受性は１０倍といわれる。生物も子供も何も悪いことはしていない。原発を許した世代の一人として、生きていく意味を仲間とともにしたい。今福島原発から目を離せない。

第４９回環境パートナーシップエコサロン報告

今回のエコサロンは、「放射能について考えましょう」をテーマに、平成２３年６月１７日（13:30～15:00）に千葉市民活動センター会議室に高梨秀一氏（元県庁職員）をお招きして、お話を伺いました。当日は、一般市民団体、県や市町村職員、生協関係、専門的な知識をお持ちの方など、１５名ほどのご参加をいただきました。

一番気を使って話されたことは、分かりやすいこと、そして、いろいろな質問を想定して、十分な資料を準備されていたことです。

主な内容は、１）県民の放射能影響不安への対応、２）県内の放射能測定公表データをどう読むか、３）放射能影響から身を守るためにできること、4）放射能を正しく理解するためになどです。

１）では、放射能についての正しい知識を知ることが大切なので、千葉県のホームページ（ＨＰ）の放射線関連情報（特に、Ｑ＆Ａ）と放射線医学総合研究所や文部科学省のホームページを参照してほしい。２）では、千葉県が実施している測定結果は、すべて県ＨＰに掲載されていることを知っておいてほしい。３）では、（財）原子力環境整備センター「環境パラメーター・シリーズ４」（食品の調理・加工による放射性核種の除去率）が参考になります。４）では、文部科学省の出している、「放射能を正しく理解するために」が一番参考になります。

質疑応答では、各市町村でも毎日たくさんの問い合わせがあることや、子を持つ母親の不安や、環境省がなぜ放射能測定をちゃんとやらないのか、などなどたくさんの質問がありました。今後とも、原発の放射能の影響について、正しく知ることが、少しでも不安をなくすことにつながると考えます。

（文責：広報部）

2011 ちばし手づくり環境博覧会

６月４日に「きぼーる広場」（きぼーる１階アトリウム）で開催された「2011 ちばし手づくり博覧会」にスタッフとして参加しました。

今年で７回目ということですが、私は初参加だったので「お客」として他のブースの見学もさせていただきました。

出展団体は、学校：１、市民団体：18、事業所：４、行政：２で、計 25 団体、出展部門としては、環境保全：２団、環境学習：４団体、温暖化対策：８団体、循環型社会：11 団体でした。

簡単に言ってしまえば、エコメッセのミニチュア版なのですが、たまたま通りがかった親子連れなども比較的多かったように見受けられました。

どの団体も、パネル展示だけではなく、クイズ形式や遊べるコーナーなど、それぞれに工夫がありました。環境パートナーシップちばのコーナーでは、団体会員である「NPO 法人循環型地球環境保全機構が共同出展してくれたおかげで、パネルのほか、魚釣りゲーム、手回し発電体験、ケナフの種のおみやげなど、バラエティーに富んだ内容になりました。

魚釣りゲームは小さな子どもたちにも人気でしたが、興味深かったのは、大学生？の若者のグループがトライしたときでした。なんと、生きものの名前が、ほとんど分からないのです！

もしかしたら彼らは、本物の生きものって触ったことがないのかもしれません。そういう若者たちが近い将来、この日本を引っ張っていくことを考えると、ちょっとばかりおそろしい気がしました。

前記したとおり、出展分野の多くは温暖化防止と循環型社会で、東日本大震災の後であることも影響しているかもしれませんが、そうでなくても、これからの大きな課題なのでしょう。個人的には（生きものを知らない若者の魚釣りゲームの印象が強烈だったので）、生態系、生物多様性についての発信がもっと増えたら良いのにと思いました。

なお、会場で使用した電気は、太陽光で発電した福島県産だったそうです（グリーン電力証書発行：太陽光発電所ネットワーク）。その仕組みは、私にはちょっとむずかしかったのですが、ちゃんと考えられていたのだそうです。

また、会場で行った東日本大震災救援募金には 13,767 円が寄せられ、被災地に贈られるそうです。

（文責：小倉）

「きて、みて、ためして、エコライフ さあ、地球にいいこと始めよう！」
あいにくの荒天でしたが“とーっても楽しかったです！”

６月１１日（土）船橋中央公民館４・５・６階と館前広場を使って、「第１４回のふなばし環境フェア」が、市民・事業者・学校・行政の４４団体が参加して開催されました。環境への願いを書いた短冊を、市長や実行委員長子どもたちが大きな笹に結びつけ、七夕飾りができ上がったところで、ふなばし環境フェアは始まりました。

内容は例年以上に充実していると感じましたが、来場者は雨のため例年より少なく３５００人でした。目に見える節電として、１０個の孟宗竹で手作りしたひしゃくの打ち水作戦も用意したのですが残念でした。・館前広場では、池や海にすむ生き物を見つけて触れる体験、丸太切り体験。

・４階では、「船橋の生活環境について考える」として、ごみ・せっけんの問題・市内の企業や団体と行政の取り組みの紹介。
・５階では、「船橋の自然環境を考える」として、森に住む植物や生き物・船橋の自然を紹介した写真・生物多様性の展示。
・こどもイベント広場では、切り紙・どんぐり人形作り・リサイクルクラフト・三番瀬の貝殻標本つくり・手回し発電機の実験・三番瀬かるた大会など。
・６階では、「節電ＰＲと企業の展示コーナー」として、地球温暖化対策の紹介で家庭でできる節電対策・太陽の熱でできること。にぎやかな省エネクイズ大会。東日本大震災による市内の被害状況写真展示など。

寄せられたアンケートから。

「たっぷり２時間かけて楽しませていただきました・もうすこし簡単なものを・生き物の展示は面白い・体験できるものが沢山あり楽しかった・今年で３年目勉強になります・環境のことを知るとてもいい機会になりました・いろいろ研究アイディアありで感心しました・雨にも負けず楽しかったです・お話を聞いて楽しかった・」

（文責 大西）

エコフェアいちはら　～私たちからはじめるエコ♪～

環境月間の６月 18 日（土）10 時～15 時、市原市市民会館・市役所駐車場で開催されました。

出展は３７団体です。内訳は、主に里山活動団体、京葉コンビナートの企業、八幡高校生物部、千葉県資源循推進課、千葉県環境研究センター、千葉県環境財団、市原市環境管理課などでした。また、地産地消コーナーとして、市原市産の農産物で作った米粉のパン、ジャム、太巻き寿司なども販売され、駐車場はフリーマーケットが開かれ賑やかでした。

同時企画として、福増クリーンセンター施設見学のバスツアーや環境保全推進絵手紙表彰式もありました。さらに市内３校の吹奏楽部によるブラスバンド演奏もあり、若い人の参加に会場からは拍手が響いていました。旭硝子（株）のブースでは、震災応援メッセージ等を書き込むマイうちわづくりに人気がありました。また、協働のいちはら・まちづくり会議のブースでは、市民生活部市民活動支援課の NPO ボランティア支援室の職員の方や、市民の運営員の方が詰められており、市民との協働をどのように進めていくかなどについて、熱く語ってくださいました。このような仕組みは全国でも珍しいそうです。

環境保全は、市民の関わり、協働してのまちづくりで進めていくことが重要と思います。東日本大震災後を受け、これからの生き方、暮らし方、価値観など多くの人の知恵と思い、行動が試されます。

ところで、当会のブースは、活動紹介と環境情報のパネル展示のほかに、「魚釣り大会」を行いました。淡水にすむ水辺の生き物を主としました。子どもたちにとても人気があり、いつの間にか友達同士で釣り数の競争が展開されていました。幸いなことに、両隣のブースでは、本物の生物が展示されていて、「釣れた生き物は隣で実物を見てね！」と学びの良い機会に恵まれました。市原市内には、貴重な生物が生息して私たちの目を楽しませてくれますが、自然や里山などの保全団体の活動も盛んです。　当会は実行委員としてこのイベントに参画していますが、当日は市原市に在住の会員の方が訪問してくださいました。地域での活動で会員の方にお会いするのも楽しみです。

（文責：桑波田）

「環境ひろば千葉」～会員参加型のホームページをめざして～

広報部　平田　耕

今年の事業計画に、会員相互の情報交換が図れるホームページ「環境ひろば千葉」の構築があります。その基本方針として、まず現在の環パちばのホームページを、仮にユーザーを運営委員と設定し、このユーザーが自由に投稿等を行える方式に改良し、それで得たノウハウを使って、次段階でユーザーを環パの会員等に拡げた「環境ひろば千葉」を作ることにしました。

現在のホームページは、10 年以上前の作り方で、記事の更新が専任者しか行えず、タイムリーな更新が難しいことが課題でした。今回、WordPress というブログ機能のあるツールを導入し、ユーザーが随時投稿を行い更に応答も行えるようにし、迅速な情報提供や交換をできるように調整しております。

更に、蓄積したデータを生かすための検索機能を活用しています。このデータの大半を占めるものが、80 号を数える環パちば「だより」です。

実は、今回の改装作業を通じて「だより」の創刊号が、なんと平成９年８月に発行されたことを知りました。この頃は、まだインターネットの回線速度が遅く、今では行政も当たり前のように使う PDF ファイルも専門家が使い始めたばかりで、創刊号が PDF で残されていたのに感動しました。ホームページを開設された平山氏が後世に残すため、少々シミがある紙の創刊号をスキャナで読み取り PDF 化されたのでしょうね。今はワードの原稿が即 PDF に変換できて非常に便利になりました。

まず「だより」を年別に閲覧できるように直し、更に各だよりに「タグ」と呼ばれる検索ワードを登録することにより、検索ができるようにしました。今後、投稿されるその他の形式のデータでも、これからは「タグ」を付して検索できるようになります。

現在は、運営委員に使い勝手を評価してもらいながら完成形に近づけているところです。
今の状態のホームページを以下サイトでご覧ください。（画面例は「環パだより」を選択した画面です）http://kanpachiba.com/kanpa/

次段階の「環境ひろば千葉」に移るためには、より多くの会員の皆さまが満足していただけるようなソフトの改良と同時に、更に広報や投稿の勉強会などによる普及活動を行い、当会のモットーである「つながれ、ひろがれ」によりユーザーの拡大を目指します。皆さまのご協力、ご支援をお願いします。

夏休み！
「印旛沼でＥボートを体験しよう」のご案内

主催　環境パートナーシップち

印旛沼のことをもっと知ってもらう取り組みとして、みなさんがＥボートに乗り、水上から印旛沼の水や植物について見てふれる「Ｅボート」体験活動を行います。ぜひ、ご参加ください。

申込先、問合せ先　桑波田
Ｅメール：kuwahatak@hotmail.com
Fax：043-258-5437
携帯 090-5415－9074

日　時　平成 23 年8月20日（土）
午前組 9:30～12:00　午後組 13:00～15:30
対　象　小学４年生以上。小学生は大人同伴のこと。
申込締切　８月６日（土）
定　員　午前組と午後組各 18 名（先着順）
参加費　１名 500 円（保険代、資料代）、
現地集合時に徴収
集合場所　佐倉ふるさと広場管理棟

エコメッセ2011inちば

入場無料
日時：2011年9月4日（日）
10:00～17:00
会場：幕張メッセ　国際会議場
主催：ｴｺﾒｯｾ2011 in ちば実行委員会
http://www.ecomesse.com

「ちば最大の環境活動見本市」

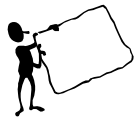
東日本大震災
被災地支援の募金活動も行います

“エコメッセ”は、持続可能な社会の実現をめざして、市民・企業・行政のみんなが良好なパートナーシップの基に協働し開催する環境活動見本市として実行委員会で企画運営しています。2010 年は１０，５００人のご来場をいただきました。2011 年は３月 11 日の震災を経て、実行委員会企画Ⅰとして、エコネコ＆チーバくんリユースＴシャツをチャリティ販売（1,000 円）し、収益金と会場での募金を寄付する「東日本大震災復旧・復興支援募金活動」を実施します。企画Ⅱは、国際会議室での特別企画「みんなで考える これからの防災とまち・くらし」。企画Ⅲは、農林水産物の買い控えなどで経済活動にも影響が生じてきている県内の被災地を応援するため「がんばろう千葉物産展」開催など、復興支援「がんばろう千葉応援隊」に参加した企画をしています。また、企画Ⅳでは、「身近なところから節電対策」で家庭や企業で実施している節電対策を紹介し、会場でも節電を呼びかけていきます。この夏実施している節電を「私（わが社）がしている節電行動は」というシートに書いて FAX やメールで送ってください。当日は会場に貼って、みんながガッテンする良い節電行動を来場者に選択していただき、表彰したいと考えています。

また、今年が「国際森林年」であることから、「森の資源館」（201 会議室）において木や竹製品の展示、積み木や箸などの製作体験等を予定しています。恒例の缶つぶし大会、エコカー展示・試乗会等ももちろんあります。そして、盛り沢山の出展団体がお待ちしています。

エコメッセ 2011in ちば
実行委員長　桑波田和子

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　５　―
おききしました！　この人・この団体



新美健一郎氏

―環境と農の広場/主宰、元市民環境フォーラム・流山/会長、省エネ・創エネ実践家、PV-Net 千葉/相談員・省エネ市民会議員（流山）―

当会の機関紙、環境パートナーシップちば「だより」３２号（平成１５年7月３１日発行）の「各地で進むパートナーシップ」の原稿を新美さんにお願いした経緯があり、県内各市の環境イベント、フォーラムなどがどのように行われ、そこから環境パートナーシップの輪がどのように育っていくのか、知りたく思い、新美さんに、以下の４点について伺いました。

（１）「市民環境フォーラム・流山」

市民環境フォーラム・流山では環境月間に合わせ、毎年６月に市の協賛を得て環境シンポジウムを開いてきました。発足 10 周年の今年は、流山市内の環境関連 20 団体に呼びかけ、各団体の活動をアピールする展示会と、持続的循環社会を農的な面から鋭い指摘と「地産地消」など分かりやすい造語の生みの親である農水省農林水産政策研究所所長(現農水省副大臣)・篠原孝氏に「農的循環社会について」と題する基調講演をお願いしました（だより３２号からの部分的抜粋)。

（２）「環境と農の広場-情報の発信」

新美さんは現役のころから土日の農業体験をされたこともあり、「環境と農の広場」を主宰して、環境と農のイベント案内を月に１～２回、メール発信をしている。１回に発信するイベント数はおおよそ１２０件で、実績では月２回なので、当然、その倍近くになる。膨大な情報である。大事にしていることは、― 明日への助け合い・環境保全と食と農の安全―。情報の集め方は、「環境」「農」「食」「科学」などの活動やイベント、それらを支える情報をお寄せください。とお願いすると同時に、また、本情報を転送いただいて結構です。とお返しをする。情報を提供するときは、いつ、何を、内容、どこで、主催、問い合わせ先などを、記載する。ただし、掲載に関しては、「できるだけ多種の情報を掲載したく、同一団体さんの掲載数を限らせていただく場合があります。」というように、とても公平に作業をされています。情報収集は、足で集めるのと半々ぐらいです。

（３）「省エネ・創エネの実践」

今年の４月のイベントで、わが家の省エネ・創エネの実践報告をしました。太陽光発電、省エネ機器、ＤＩＹ 含む省エネリフォームを行い、５年間の実績データを積み上げた力作です。結論として、１）光熱費の削減はもちろん、ＣＯ２の削減も達成。２）暖房や給湯の光熱費を太陽光発電などの自然（創）エネルギーを含め総合的に改善することがポイントです。３）お金は有効に、銀行ではなく、未来に向けて使う。４）太陽の光や熱によるエネルギーを導入すると、別な世界が見えてくる、たとえば、小水力発電の可能性など・・・。

（４）「市民活動への思い」を語っていただきました。市民活動は総体的にその参加人数も増え活動レベルは向上していると思いますが、まだやること・やれることは多く、自由市民の集まりの中で、安定した活動を維持するのは困難な場合もあるのが課題で、それが現状と思います。

その解決策は、活動をボランティアでない非営利の「仕事」として育て、頼りになる組織を目指すことと思います。以前所属していた実績ある生協法人であっても、運営費を得るために組織拡大をせざるを得ませんが、そうすると中央組織と離れた末端組織との間での問題が出たりして、組織全体を纏めるのはそう簡単では ありません。

NPO 法人を含め市民団体は、現在次のステップに進むための曲がり角あるいは踊り場に来ているように思います。市民活動は、行政との関わり方や地域性があり一様にならないと思いますが、参考事例などから学習していくしか無いように思います。その場合の前提として常に思い当たるのが、市民活動の基本や常識を繰り返し学べる「活動するための市民塾」のような NPO があっても良いと思います。

市民団体は千差万別であり、それを均（なら）すため、社会全体を市民の力で効率良く改善するためにはそのような「塾」が必要に思います。

新美さんにお会いして、各個人および団体を繋いで、その輪を広げていくことの大切さを実感した次第です。　　（文責：加藤）

運営委員会報告

６月運営委員会
日時：６月７日 18:00～21:00
場所：船橋市民活動センター
報告・協議
・ちばし手づくり環境博覧会
・千葉市公民館講座
・ホームページについて
・６月エコサロン
・エコメッセ 2011、エコフェアいちはら
・アース・ダイアログ開催について

７月運営委員会
日時：７月６日 18：00～
場所：船橋市民活動センター
報告・協議
・パートナーシップ事業報告会
・印旛沼Ｅボート大会
・６月エコサロン
・だより８０号について
・LOVE　OUR　BAY　募金事業
・千葉市高浜第一小学校環境学習講座

お知らせ

エコメッセ 2011in ちば　国際会議室企画

「ちばから考える　３・11 後のわたしたちのくらし
～キーワードは、スマート！？～」

共催：房総ガス協議会　協力：環境パートナーシップちば、NPO 法人プラス・アーツ、地球サミット２０１２JAPAN
午前　10:00～12:00　　対象：親子
「イザ！カエルキャラバン！in エコメッセ　2011」
～震災後７２時間を乗り切る防災プログラム体験
なまずの学校（ゲーム）・家具転倒防止（ワークショップ）等
午後　13:00～16:00（予定）　　対象：中学生以上の大人
エコハピ・カフェ「エコでハッピーなくらしを考える、エネルギーや環境を切り口に」
ゲストメッセージ：　熊谷俊人さん（千葉市長）、工藤拓毅さん（(財)日本エネルギー経済研究所）、倉阪秀史さん（千葉大学教授）、飯島希さん（元 NHK 気象キャスター）
参加者全員でお茶（千葉のお菓子）をしながら楽しく語り合おう！
事前申込み制・先着順（定員１００名）（事前に参加申し込みをした方に抽選でディズニーペアチケット当たります）
申し込み先（e-mail）：kuwahatak@hotmail.com
FAX　:043-246-6969

緊急告知！

環境パートナーシップちばの団体会員の皆さま
「エコメッセ 2011ｉｎちば」の出展ブースに余り（10 区画程、1 区画：２m×２m）が出ましたので、再募集をします。皆さま、下記の条件のもとでの出展をご検討下さい。
満杯になりました後にお申込み頂いた場合は、お断りする場合がありますのでご容赦下さい。
問合せ先や申込方法等を下記のホームページをご覧ください。
http://www.ecomesse.com/
エコメッセ実行委員会

平成 23 年度千葉県環境功労者知事感謝状表彰

平成 23 年６月 15 日（火）　　千葉県庁本庁舎５階　大会議室
表彰者：石黒　智彦　氏　　鈴木　康雄　氏　桑波田　和子　氏　温暖化防止ながれやま
※環境月間ポスター部門、作文部門、標語部門の小学生から中学生までの表彰されました

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団　環境技術部
業務管理グループ気付
TEL：043-246-2180　　ＦＡＸ　043－246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		